

幼児教育コース 子どもにしっかり想いが伝わるよう、表現力を鍛えます。

奇 ゆかり 幼児教育科 学科長 教授

幼稚園教諭と保育士として認定こども園での保育教諭、すべてが子どものための「環境による総合的な保育」を考えることが求められてきています。幼児教育コースでは、特に表現力の育成に力を入れた指導をしています。例えば、実習指導において行う絵本の読み聞かせでは、その技術だけではなく、この本で何を伝えたいのか、伝えたいところはどこかをしっかりと考え、どう読めばその想いが伝わるのか

をまず考えます。それは、歌や劇発表についても同じです。グループで討論したり、自分で工夫することにより、それを実際に子どもたちの前で披露し、その反応を基に改善していきます。このことが主体的に物事を考え進める力を養います。そしてその力“表現力”こそ実際の仕事で求められるものです。自分自身の得意な分野の力を伸ばしながら、保育者に必要な表現力を身につけていきましょう。

介護福祉コース 温かい心と専門技能を兼ね備えた介護現場のリーダーに。

青木 淳英 介護福祉コース 教務主任 教授

ますます需要の高まる介護福祉士には、今以上に医療面での役割や在宅介護など地域社会での活躍も期待されています。それに応じて資格取得の難易度も高まり資格取得者への評価もより大きいものになっていきます。このような現状をふまえ、介護福祉コースでは介護の現場で温かい心で周囲と接し、コミュニケーションが取れる介護福祉士の育成を心掛けています。また、専門職として十分な知識や技能を

備えるとともに、さまざまな場面において自分で考え実践しようという姿勢を培う指導を行っています。加えて本学幼児教育コースのカリキュラムも学べるようになったため、障がい児支援についても身につけることができます。一人ひとりの学生ときめ細かく接し、親身に育てる真の少数教育で、介護福祉の現場でリーダーシップを発揮できる人を育てていきます。

同窓会・県人会の準備がすすんでいます。

和歌山 県人会発足会

和歌山県在住・出身の方は、同窓会受付で県人会への登録をお願いします。当面は、会員交流・講演会等のイベントを考えています。

鳥取・島根 県人会

2県合同県人会の準備を進めています。お世話・お手伝いして頂ける方、ご連絡をお願いします。県人会担当 堤 和子(旧姓：大谷)

ひまわり会はこんな学生支援もしています。

- ①「ひまわり学業奨学金」
在学生在を対象に成績優秀でありながら経済的事情により修学困難な学生を支援する目的で、給付する奨学金制度です。卒業後の返還義務はありません。(詳しくは同窓会事務局へお問い合わせ下さい。)
- ②「カレッジメイト」
入試の種別を問わず、授業料減額の特典を受けることができます。本学卒業生、在学生の兄弟姉妹、父母、子女、孫が対象です。(詳しくは短大事務局へお問い合わせ下さい。)

同窓会事務局より

※住所・姓名変更された方は、同封のハガキで同窓会へお知らせください。問い合わせがふえています。お友達の変更も教えてください。ハガキにはご記載ください。
※3名以上でミニ同窓会を開かれたら同窓会へ通信をお願いします。
送ってくださった方に、粗品を進呈いたします。
※最近、同窓会を名乗り、個人情報を引き出そうとする事態が発生しています。本同窓会は、個人に対してそのような行為は一切行なっていません。不審な問い合わせがあった場合、至急ご連絡ください。

同窓会メール dousoukai@chiyoda.ac.jp
ホームページ http://www.chiyoda.ac.jp/dousoukai/ (来春までリニューアル工事中)
〒586-8577 大阪府河内長野市楠町西 1090 番地
千代田学園本部気付 同窓会事務局 行
Tel 0721-53-5281 Fax 0721-52-5782

「いいね」してくださいね♪

ひまわり会も Facebook に参加しています。

ひまわり会NEWS

Vol.16

大阪千代田短期大学 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685 TEL 0721-52-4141 http://www.chiyoda.ac.jp/

大阪千代田短期大学

発行：ひまわり会 2017.9.20
〒586-8577
千代田学園 気付 同窓会事務局
TEL:0721-53-5281 FAX:0721-52-5782
http://www.chiyoda.ac.jp/~dousoukai/
E-mail : dousoukai@chiyoda.ac.jp

ご挨拶

学校法人千代田学園 理事長
大阪千代田短期大学 学長
高橋 保



千代田短期大学の今日から明日へ

ひまわり会の皆様、お変わり有りませんか。今年例年にも増して、全国至る所で大雨と洪水の被害に見舞われ、多くの方がお亡くなりになりました。衷心よりお悔み申し上げますとともに、被災された皆様をお見舞い申し上げます。

さて、短期大学を取り巻く環境は、4年制大学への進学志向が年々顕著になるなか、厳しい状況ではありますが、でもだとしてら猶の事と言うべきか、ここが私たちの底力の見せ所ではないでしょうか？皆さんは2年間の大学生活を通して、学びの充実は言うに及ばず、生涯を通じた友人を得たと言う人も少なくないことでしょう。本学がいつまでも、其々の人の心の故郷であって欲しいと切に願っています。そして皆さん方も又、母校を誇りに思えばこそ、力になりたいとお考えの方も沢山いらっしゃると思います。そんな皆さん方に本学の未来について構想の一端をご紹介しますよう。

2020年はオリンピックの年、だけでは無くて私たちにとっても記念の年なのです。学園創立70周年、本学開設55周年、文字通り山坂を乗り越えてきた歴史の重みを感じずにはられない年月です。今、学園はこの記念の年を向かい風を跳ね返し、新たな飛躍の機会とするために、「学園振興3か年中期計画」に取りかかろうと準備をしています。具体的なことはこれからですが、大枠は①本学舎に4年制大学を招致し、本学と共同して、研究・教育を一体的に提供する、他に類例を見ない大学間連合は出来ないか、②高等学校と短期大学を結ぶ5年一貫教育の一期生が入学するこの年までに、揺るぎ無い学びの土台となるカリキュラムや連携システムを整備し、③高等教育機関として地域貢献、連携事業、とりわけ地域における生活や福祉課題に積極的に取り組む体制を如何に確立するか、等を念頭に計画の作成に当たりたいと考えています。本学の学生にとって、これまでもそしてこれからも変わらずに唯一無

二の学び舎であるためには、今日の社会が抱えている課題解決への一助になればこそ、無くてはならない学園として展望が開かれようと言うもの。この気概を持って、事に臨む所存です。

どうか母校の増々の発展のために改革に関する様々なご意見を今後頂戴できれば、こんな嬉しいことはありません。是非お力添えをお願い申し上げます。そして、2020年には同窓の皆さん方とともに周年を祝う細やかながらも心温まる会を催したいと思ひます。その日を楽しみにこれから一層精進することをお誓いし、御挨拶と致します。

ひまわり会 会長 松原 栄子

(幼教16期生 旧姓：西川)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。母校・千代田短期大学(ちよたん)は、幼児教育コースと介護福祉コースで、専門知識と実践力・考動力あるプロフェッショナルを育てる短大として飛躍しています。

10月28日の大学祭(小山田祭)には、そんな母校の様子・後輩の頑張っている姿を見に来てください。また、恩師や同窓生との語らいの場としていただけることを願っています。

6月の幹事・役員合同会議で、幹事会のあり方・運営などを話し合いました。初の企画として、今年3月に卒業されたみなさんの同窓会を11月26日(日)に開催することになりました。ご都合をつけて参加してください。

そのほか期生・学科の同窓会企画には往復葉書等の通信費補助も活用していただけます。同窓会開催時にご連絡ください。

大学祭当日は、ひまわり会受付にて記念品とバザーチケットを用意していますので、お立ち寄りください。同日開催の同窓会総会にもご出席くださいますようお願いいたします。

まだまだ暑い日が続きます。お体ご自愛下さい。



小山田祭&ひまわり会総会

日時 10月28日(土)

総会 13:00~13:40 短大総合館 S22教室(全日開放)
幹事会 13:40~ 同窓生の語らい・絵本のひろば 休憩等に使用できます。

同窓会ひまわり受付 9:00~13:00
参加者の方にはファイル・バザー券(500円分)進呈!

馴染みのある絵本や新作の絵本があります。お子さまと一緒に見に来てね。

同窓会模擬店 10:00~14:00

「金魚すくい」100円 家庭焙煎「いいたてや」200円

交通アクセス

南海高野線「千代田」駅下車
本学への直行バスで約12分
(午前8時~10時台に出ています)
路線バス「⑩緑ヶ丘北町」行き
「東峯口」下車すぐ。

近鉄長野線・南海高野線
「河内長野」駅下車
本学への直行バスで約14分
(午前8時台に出ています)
路線バス「⑩⑪緑ヶ丘循環」行き
「東峯口」下車すぐ。



千代田大使募集

母校では、大学と地域社会を結ぶ同窓生を募集しています。同窓生の皆様、奮ってご応募下さい。

ちよたんキャンパス

河内長野市街を一望できる眺めの良さも
キャンパスの魅力のひとつ。

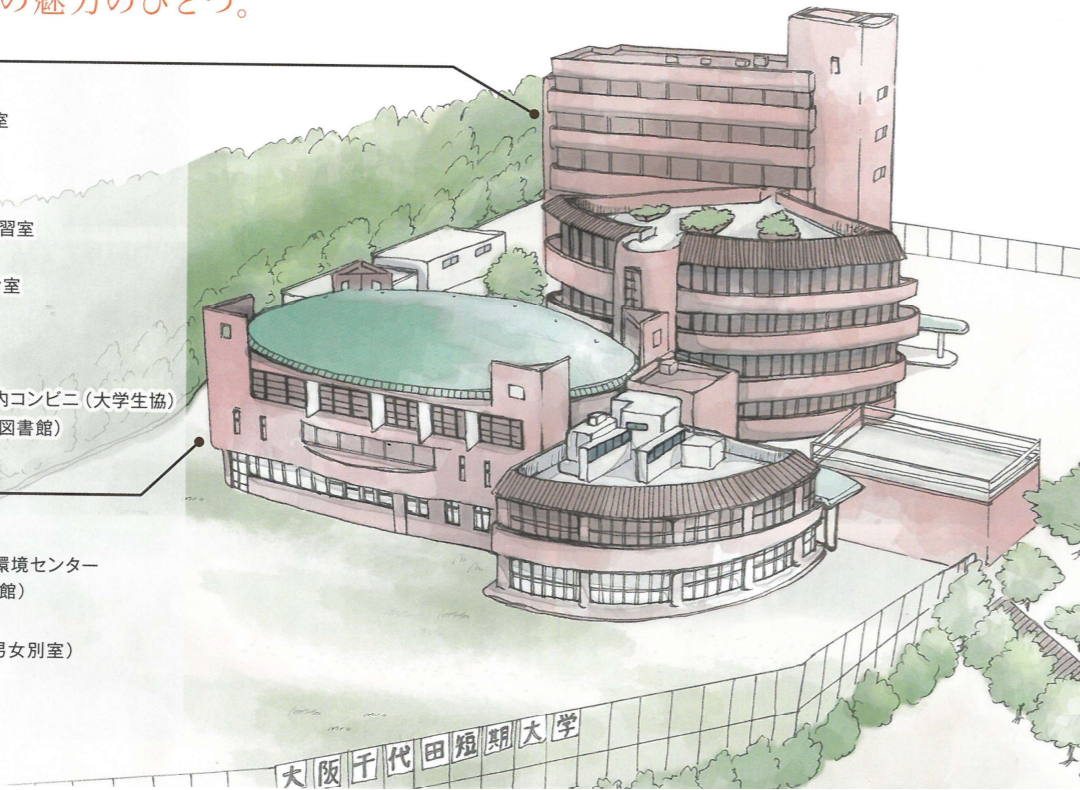
本館

- 1 ロビー
- 2 コンピュータ室
- 3 介護実習室
- 4 入浴実習室
- 5 屋上庭園
- 6 乳幼児保育実習室
- 7 図工室
- 8 ピアノレッスン室
- 9 音楽室
- 10 大講義室
- 11 図書館
- 12 学生食堂・学内コンビニ(大学生協)
- 13 AVコーナー(図書館)

総合館

- 14 学生ホール
- 15 ちよたん保育環境センター
- 16 アリーナ(体育館)
- 17 リズム室
- 18 ロッカー室(男女別室)

クラブ室



介護福祉コースの学生の昨今の様子

松井 順子 先生



皆様、2025年問題をご存じでしょうか。日本社会は2025年に団塊世代が後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類がこれまで経験したことのない超高齢社会に突入します。本学の介護福祉コースの学生はそんな困難な時代を支える貴重な人材に成長することをめざして、日々、座学の授業や演習、実習に励んでいます。2回生は介護福祉士としての専門性が問われる、入所の介護福祉施設での1ヶ月実習をこの6月に終え、小さな自負心が芽生えたところではないかと感じています。一方、1回生はデイサービスでの10日間の実習を終えたものの、高校までの受け身の姿勢では到底、介護福祉士は務まらないという現実を突きつけられ、今、気持ちを引き締め、立て直しを図っているところです。ですが、どの学生も高齢者や障がいのある方たちを支えたい、社会に貢献できる仕事に就きたいという希望を抱いています。もちろん、その希望は専門的な知識と技術に裏打ちされたものでなければ、国家資格とはなりません。厳しい2年間ですが、しっかり学び、しっかり経験して、社会に巣立つよう、教員と職員は一丸となり、学生指導に当たっています。保護者の皆様にも、これまでと変わらずお力添えを頂き、ご家庭でのご指導等をよろしくお願いいたします。

ステップアップ

丸小野 祐太 先生



私は、幼児教育コースの学生の個人ピアノレッスンを担当しております。ピアノは、基本的に右手で旋律、左手で伴奏というように、弾く左右の手指は、それぞれ違った動きをします。(同じ動きをする箇所もあります)なので、特に初心者の方たちにとっては大きな壁となっている部分もあるようです。それでも、学生たちは諦めずに日々、指定された課題曲をクリアしようと、休み時間や放課後を利用して、分からない箇所は友だちに聞いて教えてもらったりするなど、一生懸命、練習に取り組んでいます。また、授業が始まった当初、緊張であまり話せなかった学生たちも次第にその緊張が緩み、今ではすっかり「先生、ここ分からない」「ここ何度も練習してもできない。どうしたら良い？」等、疑問に思うことをどんどん質問してくるほどになり、レッスンを重ねるごとに、少しずつステップアップしていることが垣間見えるので、嬉しく思います。保育士になる為に必須であるピアノ。ピアノが弾けるだけではなく、自ら伴奏をしながら歌う「弾き歌い」のできる力も必要になります。今、一番しっかり勉強できる時だと思いますので、悔いの無いよう、そして「ここまで出来るようになったよ！」と、胸を張って社会の中へ羽ばたいていけるよう、精一杯の学生生活を送ってほしいと願っています。

卒業生の今

船橋市の文学賞(佳作)をいただきました

村山 節子(幼教5期生 旧姓:清水)

心を解いて

心を解いて 町を歩く
見慣れた家並みは 心を開いてくれるが、私は 初めて見たように 歩く
子ども達が 明るい声を残しながら 路地を駆け抜けていく
犬が飼い主を引っ張るように 先を急いでいる
電線に鳥が留まって睥睨している

心を解いて 林を歩く

なじみの林は いつもの親しさを見せてくれるが、私は 初めて見たように 歩く
見上げた樹の上から 青空が覗き込んでいる
樹の幹に 光がまとわりついている
足元の葉っぱが 声を隠して囁き合っている

心を解いて 川辺を歩く

身近な川は いつも待っていてくれるが、私は 初めて見たように 歩く
水は 前からそこにあったように じっと佇んでいる
岩の上の亀は 苔生した置物のように 微動だにしない
川辺の雑草が 水にのし掛かるように 繁っている
あゝ 翡翠が 緑青色の軌跡を残しながら 水面 すれすれに 飛んでいく
解いたところに それらの一瞬 一瞬を織り込もう
そうと じすかに

通信はがきより掲載(ミニ通信)

M・Yさん 幼教6期生

毎回の会報を読ませて頂いて、貴校の発展に感動しています。万博の様子がテレビから流れると、短大生活が重なり懐かしいです。平凡な主婦ですが、楽しかった寮生活・寮友がいつまでも輝いている昨今の私です。

S・Hさん 英米8期生

ひまわり会ニュースが届くと、短大生の頃を思い出します。今では、なかなか短大の前を通る事はないのが少し寂しく感じています。機会があれば小山田祭にも参加したいです。

がんばっています

安井 由紀(幼教15期生 旧姓:田中)

現在は、体験型農業公園、富田林市農業公園サバーファームで働いています。この春から果実グループのイチゴ担当になりました。親苗から増やして、14のハウス(温室)に約3万株のイチゴを育てます。今は苗を増やしている最中です。1年かけて地道に育て、12月上旬から6月上旬まで、甘くておいしいイチゴを食べてもらえるように、毎日頑張っています。新しく種から育てる栽培方法があって、苗を枯らすリスクが減れば、コストも減り、より安くおいしいイチゴが出回るのも、遠く無いと思います。公園は20ヘクタールあり、樹木や花畑・レストランやバーベキュー場もあります。大根やトマトなどの野菜や、ブドウ・ナシなどの収穫が楽しめます。又、アスレチックなどの遊具もあり、小さな子どもから年輩の方まで、一日中ゆっくり楽しんでもらっています。地元の農家の協力もあり、直売所は、ほぼ休み無しで営業しています。来園の方と、お話しするのが好きで、「甘くておいしかった」と言って下さるのがうれしいです。そのために今、汗を流しています。機会があればお越し下さい。



仲間たちとの「子育てねっとわーく」

木村 泉(幼教16期生)

卒業後、地元に戻り13年間幼稚園に勤務しました。その後は、我が子の不登校や闘病を経験したことから、子育てに悩む親御さんたちの応援をしたいと思い、仲間たちと「子育てねっとわーく」を立ち上げました。廣木克行先生に学ぶ講演会やワークショップの企画・運営をしています。子育てする環境は、まだまだ厳しいです。少しでも子どもたちと楽しく向き合える子育てができるよう、私たちが微力ながら応援していこうと思っています。

支援員として頑張っています

福田 浩美(幼教50期生)

障がい者支援施設で、生活支援員として4月から働いています。毎日、利用者の方との関わりを通し、日々の変化や成長を共に感じられることができ、とてもやりがいのある仕事であると強く思っています。利用者の方がよりよい生活を送れるように、支援に励み頑張っています。

「再会」

内山 恭子(幼教16期生)

2016年秋、「変わらないね」を合言葉に旧友10人と「渡邊先生を囲む会」は始まりました。変わらぬ筈も無く、おばさん化した30年間を語り合い、「健康面」「親の介護」「更年期」……と情報交換できる話題は盛りだくさん。幼児教育科を卒業し今でも地域の子どもたちに接点を持っている話や、短大時代に受けた渡邊先生の授業「喃語」の話も飛び出して、過去と現在を高速で行ったり来たり楽しい時間でした。またいつか「変わらないね」を合言葉に再会しようとする約束し、元気をチャージしてそれぞれの帰路につきました。

